

園長だより 第4号「学びに向かう力」

幼児期にはとても大切な3つの育ちがあります。

一つ目は「生活習慣」です。トイレ・食事・あいさつ・片付けなど生活していくための基本的な生活習慣です。

二つ目は「文字・数・思考」です。文字や数の読み書き、順序の理解など小学校の段階での学習につながる力です。

三つ目は「学びに向かう力」です。今日は「学びに向かう力」についてお話ししたいと思います。学びに向かう力とは幼児期に身に付けておくべき学びのベースです。

学びのベースになるものとして「好奇心」があげられます。これは何だろう。どうなっているのだろう。なぜなんだろう。不思議だな。いつもそんな気持ちを持っていることです。好奇心は子どもたちが主体的に学習していくための大切なエネルギーになります。

もしもお子さんが「なぜこうなるの?」「どうなっているの?」と尋ねてきたときは「これはこうだよ」とすぐに答えを与えずに、「なぜだろうね」「どうなっているのかなあ」と同調してください。お子さん自身に考えさせたり、調べさせたりすることが何よりも大切です。

「協調性」も学びのベースとして大切です。遊びなどでお友だちと協力することができるということです。一緒に積み木あそびをしたり、泥あそびをしたり、ルールを守って鬼ごっこをしたり・・・お友だちと力を合わせることで楽しみや喜びが大きくなるという体験をたくさんさせてあげることが重要です。お友だちと関わる機会が増えると当然トラブルも出てきます。このトラブルが、あるいはそのトラブルを解決しようとするのが子どもたちの社会性を育てることになるのです。

「自己主張」ができるということも大切です。自分が何をしたいのか。自分はどうか考えたのか。どんな気持ちになったのか。みんなの前ではっきり言えるようになるということです。その対極にあるのが「自己抑制」です。これはなかなか難しいです。人の話を静かに聞く。良い姿勢で座る。小学校に入学後、自己主張することはできても自己抑制ができないお子さんも少なくありません。昔は我慢したり、辛抱したりすることが美德とされてきました。保護者の皆さんも子どもの頃には色々我慢したり、辛抱したりしてきたのではありませんか。今はそんな時代ではないと言ってしまうかもしれませんが、子どもであっても自分の思うまま、気の向くまま、わがまま勝手に行動しては困りますよね。

最後は「頑張る力」です。どのようなことに対しても最後まであきらめずに粘り強く頑張るという姿勢です。子ども達に「頑張る力」を身に付けさせるには身体と心がバランス良く成長していくことが大切です。健康な身体は当然、規則正しい食生活がベースになります。「早寝・早起き・朝ごはん」ですね。心を育てるには・・・私自身は「ほめる」ということがベースになると考えています。お子さんの自己肯定感を高めることが心の成長を促す大きなエネルギーになります。